

## チャイルドケア TOPICS 2021-2022

**NPO 法人はあとけあさん、DALE！ DALE コクサイさん、  
そしてたくさんの個人の方々よりご寄付をいただきました！**

チャイルドケアは委託事業だけでなく、子育て支援を充実していくために法人独自の事業を行っています。令和3年度は100万円を超えるご寄付をいただきました。



はあとけあさんは放課後デイサービス運営している事業者で、チャイルドケアで預かっているお子さんも利用しているので私たちの活動に賛同して下さいました。

DALE！ DALE コクサイさんは外国にルーツを持つ家族が楽しく健康作り出来るようマラソンなどを行っている団体です。毎年外国籍の家族支援をしている団体へ寄付を続けていて、今年度はチャイルドケアにいただきました。個人の方は、それぞれのつながりからチャイルドケアを応援してくださいました。

**ポラリス放課後ルームのスタッフボランティアを開始しました！**



ポラリスでは2か月に1回部屋を開放して放課後ルームを開催していました。しばらくぶりに再開するにあたり、チャイルドケアからスタッフボランティアとして小学生の受付や対応を担当することになりました。今年度は会員の齊藤みどりさんが活動してくださいました。

### 宇津木朋子さんの思い出（つぶやき） 永井圭子

この22年間で宇津木さんには本当に鍛えられたと感じる今日この頃。チャイルドケアの活動に対して石橋をたたいて渡る彼女が丁寧に事業を進めていくうえでとても貴重な存在だった。

新たな事業を提案するたび宇津木さんにもいつも「根拠は？」「計画は？」と突っ込まれ、その時は、「あー、またいろいろ言われてしまった！」と悔しい気持ちになったが、前のめり気味の私にブレーキをかけ、立ち止まるチャンスくれた。そして何より私を成長させてくれた。

宇津木さんの手厳しい一言が今ではとても懐かしい。  
もう一度あの声を聴きたい。



第37号 2022年3月31日発行

ワカズ・コレクティブチャイルドケア 発行責任者 永井圭子

連絡先 大和市鶴間1-21-19 眞壁ビル3階 TEL 046-264-5726

### 宇津木朋子さん - 追悼特集 -



2021年度はコロナ禍にあっても平常心を忘れず滞りなく運営を続けたチャイルドケアでしたが、期の半ばにおいて突然、悲しい出来事が起こりました。それは設立当時から大黒柱となってチャイルドケアを支えてくださり、5月の理事会をもって理事を退任された宇津木朋子さんが8月に亡くなられたことです。

● あまりにも突然のことで、メールで届いた「訃報」の文字がゆらめいて見えたのは夏の暑さのせいばかりではなかったと思います。

設立初期のメンバーにとって、宇津木さんは市議を3期も務められた方なので近寄り難いという先入観を持っていましたが、あにはからん宇津木さんは誰に対しても笑顔で接してくださいました。が、ひとたび活動の核心に触れた話になるとその表情は厳しく、一刀両断の物言いには何度も打ちのめされたものでした。ただ、あとになってゆっくり考えると宇津木さんの指摘は真っ当で「なるほど・・・」とその言動の奥深さに圧倒されるのでした。

私が最後にお会いしたのは6月15日。今年度からの「チャイルドケア・年会費」を頂きに宇津木宅にお伺いしました。いつもの笑顔で「はい、年会費ね。」と渡してくださったのですが、足取りが弱々しく、かすかな胸騒ぎがありました。

● ここに宇津木さんのお人柄を偲び、私たちに残して行ってくださったこと、私たちが引き継いでいかなければならない事をしっかりと受けとめるため、追悼特集とさせていただきます。

設立当時40代になったばかりの永井理事長を宇津木さんとともに牽引してきた鈴木恵美子さん。宇津木さんへの想いは・・・  
中面でご紹介いたします。

福田悦子

## 宇津木さんとチャイルドケア

鈴木恵美子

チャイルドケアの根幹を築いた宇津木さん。仲間たちと学習会を行い、先進例を見学し、大和らしい子育て支援を目指して「チャイルドケア」を立ち上げました。設立総会でNPO法人取得を方針に入れてすぐに行動に移し、神奈川県と様々なやり取りをしながら「特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブチャイルドケア」は誕生しました。

スタート時は宇津木さん宅に電話を置いて自ら受付・コーディネート・事務処理・サポートのすべてを担いながらチャイルドケアの仕組みを作り上げました。大和市の協働事業にも挑戦しました。その時の私たちの取り組み姿勢が現在の受託事業につながっていると思います。

少しずつサポートから離れても、理事としての助言は私たちの行方を律し、ママたちに寄り添うことを思い起こさせるものでした。「迷ったときは設立趣旨に立ち戻る」ことの大切さを教えてもらいました。

宇津木さんは「永井さんはチャイルドケアの顔として無くてはならない人」だと考えていたと思います。だからこそ様々な難題を課し、口うるさく言ってきたと思います。ずっと見守ってきました。「最近、強くなったね」と満足気に言うことが多くなっていました。

「理事を辞しておいてよかった」チャイルドケアへの最後の感想でした。チャイルドケアの設立から20年余り見守り続けた宇津木さんが「迷惑をかけずに済んだ」とほっとして発した一言だったのでしょうか……。

正会員の小宮千菊さんからはお葉書をいただきました。

(前略)……私は直接には宇津木さんと関わりはなかったのですが、チャイルドケアには欠かせない存在だった事はいろんな方に伺っています。

当初は近寄りやすいイメージがありましたが、最近では集まりで顔をあわせることがあると声をかけてくださったりしていたので、亡くなられたと聞いてとても驚きました。

昨年の※会員の集いでお見かけした時に、お年を召された感じはありましたが、まさかこんなに早くに訃報を聞くとは思いませんでした。ご冥福をお祈りしたいと思います。

※ 2020.11.8「チャイルドケアが目指す地域で子育ての輪」研修会

# 宇津木さん ありがとうございました



宇津木さんへ  
森田みなみ

大変お世話になりました。

私は一年前まで、長いことチャイルドケアの監事役を務めておりました。居座り続けたのは、チャイルドケアの皆さんの活動を身近な所で耳にし、感じる事ができたからでした。人々が集い、自分たちで、地域生活に必要なと思う事業を行う、そのための諸々や子育てをする方々への支援のあり方など、様々なことを知り、学びました。

そこにはいつも宇津木さんがいらっしゃいました。ゆるぎなく在られました。そのお姿に、私は常に畏怖の念を抱いておりましたが、ある日の宇津木さんは全く違っていました。

十数年も前のこと、中央林間の奥、多胡公園手前の雑居ビル二階にあった「保育室もこもこ」に、宇津木さんは、利用者からの依頼であるお子さんのお迎えに来られました。ノックされたドアを開けると、そこには笑顔の宇津木さんが立っておられ、お迎え待ちのお子さんは、すでに親しんでいる宇津木さんの顔を見るとホッとしてにっこり。宇津木さんは、柔らかな慈しみ溢れる優しい笑顔で男の子の手を取って階段を下りて行かれました。大変失礼ながら、私は驚きました。と言いますか、知りませんでした。宇津木さんがあのような笑顔をされることを。今でも脳裏に焼き付いています。

宇津木さん、その笑顔のままで、どうぞ、安らかに眠りください。

## 宇津木朋子著 1994年 緑風出版 『仲間と始める「会社」プラン ワーカーズ・コレクティブ入門』



「Q1. ワーカーズ・コレクティブってなんですか？」に始まり「Q25. 仲間と長く続けるために心がけることはなんですか？」という質問に答える形で、宇津木さん自身の失敗も含め、これまでのワーカーズ・コレクティブの仲間たちの汗と涙の結晶を詳しく、丁寧にまとめられています。最後の178ページには

そのためには、お互いがよく知りあうことです。会議などとは別に、お互いがよく知りあうための場を設定することも必要です。そうした場で、仕事の場面だけでなく別の顔や魅力を発見することも大切なことです。そして、互いの欠点を許し合えるようになれば、最高です。ワーカーズ・コレクティブの仲間が、人間的な信頼関係にもとづく同志的な関係になったとき、その集団は、本当の意味で、人の組織の強さを発揮できるようになるに違いありません。

と、このような素敵な文章で締め括られています。